活動状況報告（７月）

スポーツコース　５期生　太田　ゆき菜

いよいよ今月が最後の報告書となりました。今月は①車いすバスケットボール、車いす陸上のジュニアキャンプ，②車いすソフトボール世界選手権(日本代表チーム帯同),についてレポートします。

①車いすバスケットボール、車いす陸上ジュニアキャンプ

6 月末から 7 月にかけて約 2 週間、イリノイ大学アダプティブスポーツチームがホストするジュニアのサマーキャンプがありました。車いすバスケキャンプは、10 代の選手を対象に基礎的なことを学ぶキャンプ、10 代後半から 20 代初めを対象にしたエリートキャンプ、コーチングキャンプ 2 種類と全部で 4 種類のキャンプが開催されました。また、車いす陸上も同時期にキャンプをおこなったので、アダプティブスポーツチーム総出でキャンプ成功のために全力で過ごした 2 週間でした。それぞれ 4 泊 5 日のキャンプで、子供達に加え、夏休み中の学生車いすバスケ選手たちも戻ってきて、久しぶりに賑やかなキャンパスとなりました。

私はバスケ、陸上、コーチングと全てに参加しました。また陸上チームはシーズン真っ只中で、世界選手権を控えている選手がたくさんいたため、キャンプ期間も通常通り朝練を行いました。そのため、陸上朝練、午前セッション、子供達の移動や昼食の付き添い、午前コーチングセッション、午後セッション、移動と夕食の付き添い、午後コーチングセッション、夜セッション、後片付け…と毎日長時間ではありましたが、とても充実した時間を過ごすことができました。キャンプの運営面としては、ボランティアやサポートするアスリート学生たちに対して、キャンプが始まる前にセーフスポーツに関する講義とその同意書の記入などの時間が設けられていて、こういうことをしっかりやることはとても大切なことだと感じました。陸上に関しては毎セッション競技場までレーシングチェアを運ぶ必要があったので、乗用車後方に設置可能なトレーラーが大活躍しました。日本ではあまり見ませんが、北米では車いすスポーツチームでよく見かけます。とても便利なので日本でも導入したい道具の一つです。決して多いとは言えないマンパワーの中でそれぞれができることを積極的にやり、アットホームな空気感の中、キャンプをホストする方法は北海道のクラブ活動やイベント招致にも通じることがたくさんあり、貴重な経験になりました。また、コーチや選手が表で活躍している裏で、ここの組織のプログラムコーディネータであるボスは、縁の下の力持ちに徹して朝一から真夜中まで、誰よりもタフな仕事をこなしていて、とても尊敬できる人です。アメリカではお互いの仕事の越権は好まないので、それぞれがそれぞれの仕事にプライドをもち、責任を持って仕事を全うします。そしてどのキャンプでも最後のセッションで必ず、裏方スタッフも含め、学生アスリート、コーチ、ボランティアなど関わった全ての人たちに名指しで Thank you と Great job の賞賛があることはとても大切に感じます。些細なことで当たり前のことのように感じるかもしれませんが、アメリカでは本当にこれを大切にしていて、どのようなポジションであっても、その働きを見ていてくれて評価してもらえるということは次の意欲にも繋がりますし、重要なポイントだと思います。

バスケキャンプでは、基本的な戦術、チェアスキル、個人スキルなどベーシックなことに加え、グループを組んで学生アスリートが子供達を指導していくなど、現役選手が上手くジュニア選手へのコーチとして活躍できるように設定されていました。毎日ゲームがたくさんあり、日中学んだことを夜のゲームでチャレンジできるようになっていました。最終日にはキャンプの中で

の優勝を決める試合もあり、学生アスリートが各ジュニアチームを率いて、白熱した試合が繰り広げられました。

コーチングキャンプでは、コーチング哲学や目標設定、シーズンスケジュールの立て方、チームビルディングなど多くのことを学ぶことができました。陸上キャンプでは、陸上トラックでの練習に加えて、ローラーでの練習方法、ジムでの筋トレと怪我予防の講義、ゴール設定や栄養学、イクイップメント、プッシング技術、パラリンピアンへのQ &Aなど、多くの座学も盛り込まれており、このキャンプに参加すると車いすレーサーに必要な知識が一通り学べるように考えられた内容でした。また、栄養学やゴール設定、ストレングスなどの講義は現役選手が担当しました。チームには修士、博士課程の選手も多いため、普段大学で研究しているそれぞれの専門分野をキャンプでジュニア選手たちにアウトプットできるというのはとても良い循環だと思いましたし、ジュニア選手たちはそんな学生アスリートたちを見て育ち、大学で学びながらスポーツをするという環境が子供のうちから視野に入っていることは非常に重要なことだと感じました。

キャンプには全米各地そして海外からもジュニア選手が大学を訪れていました。現在の大学生アスリートたちの多くがジュニア時代にこのキャンプにキャンパーとして参加しています。キャンプに参加することはスカウトされるチャンスを広げることにも繋がります。イリノイ大学だけでなく多くの大学や団体が毎年夏にジュニアキャンプを開催しているので、北海道のジュニア選手で挑戦してみたい選手は是非チャレンジしてみることをお勧めします。

②車いすソフトボール日本代表チームに帯同

8月はじめに車いすソフトボールのワールドシリーズがアメリカであり、1日から6日まで日本代表チームに帯同しました。日本代表チームは昨年度優勝しており、2連覇のかかった大会となりました。私はPTとして、選手のケアを担当し、また監督会議の通訳なども務め、日本代表チームのサポートを行いました。結果は日本チームの優勝で幕をおろしました。また、ジュニアの大会も同時に行われており、4チーム出場し、一生懸命プレーする姿が見られました。日本にはジュニアの大会やジュニアチームがほとんどない環境なのでこのように子供達が試合し、競い合える環境がとても光って見えました。加えて、ジュニアでもシニアでもソフトボールの試合には現役の車いすバスケ選手がたくさん出場していました。私のチームメイトや先日のジュニアキャンプで出会った選手なども多く見られ、バスケシーズンがオフのこの時期に他のスポーツをやるという流れができていることがわかります。特にジュニア期のマルチスポーツは一つの競技のバーンアウトや傷害を防ぐためにも有効であるとされており、このような環境作りはとても大切に思います。この1年日本人に会うことはほとんどなく(特に日本人パラ選手に会うことはほぼなかったので)、久々に日本の選手やチームにを見て、アメリカと日本の考え方や空気感の違いなど色々なことを考えさせられる時間にもなりました。

以上で1年間の留学期間は終了になります。北海道の皆さんに応援していただき、みらチャレ生として1年間ものすごくたくさんの経験ができたこと、本当に感謝しています。ありがとうございました。目標である国際レベルのクラス分けを学ぶことができ、充実した時間を過ごすことができました。引き続き、北海道のパラスポーツの発展に向けて私にできることをコツコツとやって行きたいと思います。また、 8月末から9月初めにかけて北海道でアメリカ人選手やコーチ、教授などを招待してパラスポーツのイベントが行われる予定で、私も準備から参加しています。是非多くの皆さんに足を運んでいただけたら嬉しいです。

①ジュニアサマーキャンプ

②車いすソフトボール日本代表チーム帯同